

Q 児童数減少によるスクールバス 運行の問題を解決せよ

A 安全確保を第一に慎重に検討していく



佐藤定男議員

児童についてバスを利用したいという要望があったと聞くが、どうなっているか。

教育長

スクールバスについては、国見小学校新設開校準備委員会で話し合われた結果に基づいて運行しているもの。

各地区的な集合場所は何か所あるのか。

次教育

集合場所は小坂3か所、森江野6か所、大木戸5か所、大枝4か所の計18か所となっている。

藤田地区でやや遠距離の子どももいるが、現在は最初の約束での運行となっている。

問

大震災後、児童の運動能力の低下や、肥満傾向があるという調査報告があるが、バスによる通学との因果関係は。

教育長

因果関係はないとは言い切れないが、詳しい調査データはないので正確な結論を出すことは困難である。

問

今後児童数の減少傾向は避けられない問題である。

スクールバスの集合場所を旧小学校にすればいろいろ問題がすっきりするのでは。

教育長

スクールバスの運行について、小学校新設開校準備委員会や保護者、各地区の代表者、学校関係者などによる検討委員会で決定した経緯がある。安全確保を第一に、通学時間や利便性など時間をかけて慎重に総合的に検討していく。

問

小学校が統合されてスクールバスの利用が始まってから3年が経過し、児童数の減少によるスクールバスの路線変更など対応すべき問題も発生してきている。

次教育

バスの台数は6ルートで運行している。登校時は始発が7時20分から25分頃、国見小学校着が7時45分で乗車時間は20分程度となっている。下校時は学年や曜日によって時間が異なるため、原則として、国見小発が14時15分と15時50分の

問

これまでバスの運行ルートを変更したことはあるか。

次教育

平成27年3月、児童数の減少により変更している。

問

藤田地区で遠くから通学する



毎朝スクールバスで通学する子どもたち

Q 東北本線の増発や運行時間調整を望む声への対応は

A 町民の利便性をはかる観点で引き続き要望していく

問 東北本線列車の増発や運行時間の間隔の調整を望む声があるが、町としての対応は。

東北本線列車 前後で多いとは言えない状況である。そのようなかでJR東日本から、「利用者も横ばいであり、増発は難しく利用状況に応じて編成していく」との回答だった。東北本線の果たす公共交通としての使命や町民の利便性をはかる観点から、引き続き

町長 町に藤田駅と貝田駅があり、交通の利便性が高いが、藤田駅の乗降客数は1日平均1400人

問 藤田駅前の町内名所旧跡などの案内立て看板が見づらいとの声があるが、塗り替えはできないか。

企画情報課長 全体的に色が抜けてきている状況は把握している。今年度、地方創生先行事業として看板や案内表示、パッケージなどを統一感のあるデザインにまとめることにしている。その成果をベースに案内看板などの整備についてブランドデザインの効果や

必要性を含めて検討していく。

問 藤田駅前の町の駅前倉庫駐車場に公営駐車場の立て看板は設置できないか。

総務課長 町の保存文書倉庫と同様に駐車場も「行政財産」である。役場の業務に利用するものであり、公営駐車場の看板の設置は馴染まない。

「通勤・通学での使用はご遠慮願います」との看板は設置しているが、今までどおり藤田駅を利用する町民には開放していく。

問 国見インターチェンジ付近に大きな看板を設置して町を広く宣伝してはどうか。

企画情報課長 藤田駅前の案内立て看板同様、整備に向けて検討していく。

光明寺地区のほ場整備はもう行わないのか

問 光明寺地区の県営ほ場整備推進事業参画について、地区の受益者へもう一歩踏み込んで説明会などを開く予定は。 **産業振興課長** 県営ほ場整備事業は、国における事業採択までに最低2年から3年の準備期間が必要である。採択の前提となる調査が平成26年度までに終了していること、今回の事業は放射能物質汚染対策からの復興事業であり平成32年度までの期間限定で本年中の国への申請が必要なことなどから、今回の事業に再度光明寺地区を加えることは不可能であり、現段階で新たに説明会を開催する予定はない。



井砂善榮議員



藤田駅前の観光案内看板